

イミダクロプリド粒剤 アドマイヤー CR 箱粒剤	取扱メーカー： クミカ、バイエル、ホクサン 原体メーカー： バイエル
成分： イミダクロプリド〔ネオニコチノイド系〕……………1.95%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 既存の有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系等と異なる殺虫作用を示す。
- 致死濃度以下でも制虫的に作用するため、圃場においては極めて長い残効性を示す。
- 殺虫スペクトラムはカメムシ目（ウンカ類、ツマグロヨコバイ）、コウチュウ目（イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ）、アザミウマ目（イネアザミウマ）及びハエ目（イネハモグリバエ）害虫までに及ぶ。
- ヒメトビウンカによるウイルス病の感染防止にも高い効果を示す。
- 浸透移行性に優れている。
- 「CR（コントロール・リリース）」技術により、は種時から移植当日まで使用可能。
- 使用時期の幅が広いので、労力分配が可能。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 育苗箱の苗の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植する。
- は種時処理は、は種・灌水後、育苗箱1箱当たり50gを均一に散布した後、覆土する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 軟弱徒長苗、ムレ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意する。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意する。

【安全対策上の注意】……………

- 甲殻類に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないように水管理に注意する。

【適用と使用法】……………

作物名	適用害虫名	1箱* 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む 農業の総使用回数
稲 （箱育苗）	ウンカ類 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ	50g	は種時 （覆土前） ～移植当日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	3回以内 （移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内）
	イネアザミウマ		移植2日前 ～移植当日			
	イネクロカメムシ		移植当日			

* 育苗箱は30×60×3cm、使用土壌約5ℓ